

御会式文化資料叢書4

昭和新聞記事集成



昭和（戦前）の東京朝日新聞、読売新聞の二紙より、御会式ならびに周辺文化に関する記事を集めた。

まとめるにあたり、旧字を改め、繰り返し省略記号を文字に改め、読みやすいように一部句読点を加えている。

本書収録記事を利用する場合は以上の点を踏まえ、必ず元の新聞にあたるようご留意されたし。

## 昭和二年（一九二七）十月四日 東京朝日新聞夕刊

### 池上のお会式 十二日夜の警戒準備

来る十二日は池上本門寺の会式で、例年の如く東京近在を中心に約六七十万人が集まるので警視庁では警備隊百三十名および大森、品川、大崎、蒲田等の各署から約五百名を出動せしめるが、衛生部からも七班の救護班を派す事になった。

一方防疫課では、会式前に多数の防疫監吏を特派し、参詣沿道に在る料理屋、飲食店の飲食物検査並に清潔状況を観察する。

## 昭和二年（一九二七）十月十二日 東京朝日新聞夕刊

### 万灯子供を傷つく

十日夜十時半頃、芝区愛宕町三の一桜田結社のお会式万灯を同番地藤田重吉外六名が町内を担ぎ回っていた所、万灯の重みで万灯が傾いた所、傍を通行中の芝区田村町十牧田菊太郎長男清（七才）の頭にぶつけ三針を縫ふ創傷を興へた。

## 昭和二年（一九二七）十月十二日 読売新聞朝刊

### お会式 けふ本門寺で 学生連盟活動

今十二日、池上本門寺に於てお会式修行、各地よりの群参六十万に上り例年の通り賑ふ筈である。猶、都下各大学日蓮聖人讃仰連盟の第一次宣伝は、今日午後一時より同寺境内で行はれ、百二十名の学生が出演して終夜伝道を試みる。

### 昭和二年（一九二七）十月十三日 東京朝日新聞夕刊

#### 今夜のお会式 早朝から大変な人出

十二日は池上本門寺のお会式、善男善女はもう朝早くからどしどし池上街道につづいて大森、蒲田、品川の各署はいづれも非番召集で整理に努めているが、高輪駅だけでも午前十一時まで一万人近くの参詣者運び、午後からは刻々混雑を増してゆく。

### 昭和二年（一九二七）十月十三日 東京朝日新聞朝刊

#### お会式の参拝者五十万

池上本門寺の御会式は例によつて夜に入るにつれ万灯の行列がくり込み、十一時には参拝人延人員五十万に達したが風俗を害して検挙された者十八名、迷子二十二名、負傷者六名、さい銭泥棒二十一名、不良飲食物販売二百八十九名、食器不潔で挙げられた者二十八名に達した。

## 昭和三年（一九二八）十月十二日 東京朝日新聞朝刊

### 今夜の池上お会式 省電終夜運転

十二日夜の池上本門寺のお会式に、例によつて省電では中央線荻窪、国分寺間を除いた各線終夜運転することになった。普通の日の終電後は京浜線桜木町上野間、赤羽蒲田間は十分置き、山手線赤羽線および東京荻窪間は十三分乃至十五分置きに十三日初電車まで打通すはずで、尚大森、蒲田両駅への各駅から共通切符を発売して乗客の便宜を計ることになった。

## 昭和三年（一九二八）十月十三日 東京朝日新聞夕刊

### 賑やかなお会式 正午の人数既に七万人 今夜は大変だらう

快晴に恵まれた十二日の池上本門寺のお会式は早朝から人出多く、省線蒲田、大森の両駅では臨時出札所を設け池上、目蒲、京浜の各電車も満員鈴生りの盛況だ、省線大森駅から本門寺に通ずる池上街道は徒歩の参詣人が、ありの行列そのままで山内の群衆は正午既に七万と称せられている、警視庁では警戒本部を池上小学校に置き、各署から約五百名を応援させる外、別動隊として新選組、衛生部救護班等もつめかけて大警戒をしている、今夜は大変だらう。

昭和三年（一九二八）十月十三日 東京朝日新聞朝刊

人出五十万 輸送し切れぬ池上電車 昨夜お会式の賑ひ

十二日の池上本門寺のお会式は申分のないお天気なので朝から参拝の人出は例年になく多く、午後になつては刻々増加し、午後四時には付近一帯自動車の交通全く途絶し、夜にいつては万灯と人波が大井町付近から打続き大混雑を呈した。

池上電車の蒲田停留場には数万の乗車客が溢れてとても輸送力がなく、午後八時からは省線からの連絡切符を売らないやうになつた。

この夜の参拝人員は五十万を超え、省線大森、蒲田、大井の各駅、目蒲、池上の各電車乗降客は四十万人に達している。

警視庁では例年の事故に鑑み特に嚴重な警戒を行つた。

昭和三年（一九二八）十月十三日 読売新聞朝刊

往復券の全廃が祟つて折角のお会式に大損 混雑緩和から発行した割引券で鉄道省がまた一苦勞

鉄道省では先頃往復乗車券を全廃した、ところが、この頃のやうに野球シーズンとなると渋谷、原宿駅などは帰り切符を買ふ客が一時に殺到して殺人的混雑を呈し従業員も天手古舞の有様で、鉄道省も初めて全廃の影響に気がつき驚いて対策を講じて居るが、廃止して間もない今日、又ぞろ復活するなどは体面上出来ぬ相談で、さりとて昨日のやうな池上の御会式にはこれがため多数の怪我人が出ぬとも限ら

ぬので、既報の如く急に「特別往復乗車券」を発行してお茶を濁した、それも普段の往復券では流石にきまりが悪いので大森、蒲田行きに限り二割引にし往復券を奨励する傍、御会式の混雑緩和を計った次第だが、鉄道としては普通往復券なら割引がないだけに、こんな時こそ書き入れといふべきに前述の体面料として当然二割は損する事となつた訳で、今後も桜や、つつじ等で乗客が一時に殺到する場合にはこの特別往復券を発行する予定である、これがため東京鉄道局では省線各駅に命じて御会式の乗客を特に調査せしめ、この一日でどの位な損をしたかを算盤にはじく考へてあると。

### 昨夜の池上 人出十六万 各電車は鈴成り

十二日は池上本門寺の御会式で、朝から非常な人出で、警視庁出張の警察本部の調査により午後九時には十六万と註せられ、思ひ思ひの万灯を先頭に団扇太鼓の音も賑かに老若男女の団体が後から後からと続いて京浜国道は火の海と化し、夜の更けると共に見物や野次馬で身動きならぬ有様で、管下各署の正私服巡査は交通整理や取締に汗だくの有様であつた、この日省線をはじめ各電車はいづれも鈴なりで規定外の笛や鐘は高輪と品川の関所で取り上げられたものが八十点、男装して浮かれていた芝浦いけすの女中三名も大目玉を頂戴して引返した。

### 昭和四年（一九二九）十月十三日 東京朝日新聞夕刊

#### 今夜のお会式 正午早くも二万の人手

池上本門寺お会式の十二日は、雨がやんだ午前十時頃から各方面から人が集まつて、正午頃には本門

寺付近は約二万人の人出で、ぬかるみ道路は非常な混雑を呈している。この分では雨さへなければ夜の雑踏が重ひやられる。

### 昭和四年（一九二九）十月十三日 読売新聞朝刊

雨が祟つたお会式でも人出二十万

恒例の昨十二日の池上本門寺の御会式の人出は、所轄蒲田署で調査したところによれば午後四時より午後十一時迄境内は十九万九千五百人、登山者は八万八千六百人、下山者は六万九千五百人で昨年の約三分の一に減少し、万灯も昨年の五分の一に減じた。

### 昭和五年（一九三〇）十月十一日 東京朝日新聞夕刊

粋なお触れ

十二日池上本門寺のお会式の夜、その筋では粋をさかせて大森、大井、蒲田三署管内のカフェー、バーは徹夜、品川署管内は午前四時まで営業を許す事になった。

## 昭和五年（一九三〇）十月十二日 東京朝日新聞夕刊

### お会式の省線終夜運転

十二日のお会式当日の省線は京浜山手、中央の各線いづれも終夜運転をなし電車を増結して混雑時間並の運転をする。

## 昭和五年（一九三〇）十月十三日 読売新聞夕刊

### 池上通りを埋め押出す人波 去年より二十万人増加を予想 けふ本門寺お会式

今日御会式の池上本門寺は早朝より既に付近隣接町村からの善男善女の参詣人で、境内を始め池上通りは夥しい雑踏を呈しているが、その数は刻々増加して正午までには十万人を突破し本門寺に向つて来る目蒲電車、池上電車は悉く満員である、各沿道の商店及び露店商人はいづれも商品を山と積んで此の不景気も消し飛ぶやうな景気を添へている、今年は昨年より参詣者二十万人の増加を予想されているが、万灯の届出は大森署だけでも二百数十本に達している、各飲食店は沿道は終夜、大森、蒲田、大井、品川管内は午前四時まで営業を許可されて池上電車、目蒲電車、京浜電車、京浜省線はいづれも終夜運転の大書入力で大童の活躍振りを見せている、警視庁では警戒の大隊本部を池上本門寺内に置き、早川監察官が四百五十名の警官を引率し池上、入新井等の在郷軍人青年団と協力して警戒に當つている、尚ほ警視庁の衛生救護班は本部を池上小学校隣の町役場に置いて救護所を沿道四ヶ所に置いているが、今朝から一斉に沿道一帯の飲食物の検査を行つた。

昭和五年（一九三〇）十月十三日 読売新聞朝刊

万灯見物の老婆轢かる

十二日午後十時五分、芝区新網町南三洋服裁縫業山田波次郎母いわがお会式の万灯見物に芝区札ノ辻を通行中、後方から疾走してきた下谷区金杉上四二運転手立内惣吉の乗用車一〇六四号に轢倒され左肩骨折全治三週間の傷を負った、三田署で取り調べ中。

お賽銭泥棒ざつと三百余人 お会式の人出三十五万人中にこれは飛んだ景物

団扇太鼓に万灯、夜の池上本門寺はまるで人で埋めつくされ、人混は沿道に雪崩れた、昨夜、省線郊外線市鉄から吐き出され本門寺めがけて参詣した善男善女の数は夜十時に既に三十五万人と目され、警戒の警官隊も交通整理に汗ダラダラ、本門寺の本堂の前はまるで芋を洗ふやうな混雑中に大森署では賽銭泥棒三百余人スリ十一人を捕へ、迷子三十五人泥酔者五人保護した―不景気で人出がと懸念されたが信仰には変りはないらしく、睨かけて混雑を増して行つた。

昭和五年（一九三〇）十月十四日 東京朝日新聞夕刊

お会式の大乱闘 三百余名が入乱れて負傷者四十余名を出す

十三日午前二時頃、池上本門寺お会式に団扇太鼓で有頂天になつた深川区洲崎町勇講の連中百五十名と四谷区の奴講の連中二百余名は万灯を先頭に繰込む途中、市外池上町堤方浄国橋際の大森道路で出会

頭に先頭を争ひ始めて、はては口論となり棍棒カミソリ短刀等をふり回して渡り合ひ、双方から重軽傷四十五名をだした。この騒ぎに警戒本部からは早川監察官高野警務課長等の率いる新選組の警官五十余名が急行、二百四十名をその場から検束し目下嚴重取調中であるが、加害者の大部分が逃走しているで目下捜査中である。

### 昭和五年（一九三〇）十月十四日 読売新聞朝刊

#### 堀ノ内のお会式

十三日、市外堀ノ内妙法寺お会式の人出に警戒のため、五味田署長自ら警官九十六名を引率、嚴重警戒に努めたが本年は昨年約半分一万人位で迷子十人、交通事故一件であつた。

### 昭和六年（一九三一）四月十一日 東京朝日新聞朝刊

#### 本門寺の遠忌

今年日蓮上人の六百五十年忌に当るので、池上の本門寺では九日から十五日まで遠忌大法会が催されているが、全国から多数の信徒が集まつて毎晩万灯行列を続けるので御会式以上の賑はひを呈している。

## 昭和六年（一九三一）十月十日 東京朝日新聞朝刊

お会式をまえに「日蓮の夕」

十二日は池上本門寺のお会式である、本年は日蓮聖人の六百五十遠忌ではあり、また畏くも先に「立正」の勅額を賜はつた意義ふかい年なので、法華宗は大騒ぎだらう。

（注・以下、午後七時半から二時間のラジオ番組の紹介）

- ・ラヂオドラマ「法難」――午後九時より
- ・日蓮聖人の宗教 酒井日愼 午後七時三十分「講演」
- ・「七面天女」午後八時からの長うた
- ・有難づくめの新旧里謡 午後八時三十分から
- ・身延音頭
- ・法華経音頭
- ・題目踊り
- ・花笠踊り

## 昭和六年（一九三一）十月十三日 東京朝日新聞夕刊

池上お会式 素晴らしい人波 今夜、電車は終夜運転

池上本門寺のお会式は、カラリと晴れた十二日朝来から賑やかな太鼓に始まった、殊に本年は

六百五十年遠忌に当るため、省線、池上電鉄、目蒲電車、バス等から吐き出される参詣客は例年の倍、正午までに八万人を突破するといふ人波だ。

警視庁では池上小学校に警戒本部を置き、綱島監察官総指揮の下に大森署を始め隣接各署から約七百名の警官出動して警戒に当る外、防疫課員も出張、露店商四百五十余軒の一せい検査を行った、尚夜間にかけては一層人出が増加すると見られているので、万一の事故を慮かり警視庁では老人婦女子等は参詣を控へるやう希望している。この夜省線（横浜、横須賀間、中央線荻窪、浅川間を除く）及び目蒲、池上、京浜各電鉄は終夜運転である。

## 昭和六年（一九三一）十月十三日 東京朝日新聞朝刊

### 清正公と交通巡査 火の海、人の海、お会式の賑ひ

十二日は秋気さわやかなお会式日和、朝から雑たふした池上本門寺へ夜の九時頃には樺太、北海道、台湾その他各地から二百五十余の万灯陸続として繰込み、境内だけの万灯八十に達した、万灯には清正公あり、交通巡査あり新旧とりどりで省線、池上電鉄、目蒲電車が一時間にどん吐する数約二万五千、十時には既に三十五万の人出で十三日午前零時五十万に上つたといふ、この大賑はひに警戒本部を池上小学校に置き沿道一帯は池上、入新井の在軍、青年団、消防隊約二百五十名が出動整理したが今年はまとひを持つ事を禁じたため、事故は案外少かつたがそれでもさい銭泥棒六十名エロ挙動不審四十件迷子十数人で、不景気のためか流石に酔つ払ひは影をひそめた。

## 昭和六年（一九三一）十月十四日 東京朝日新聞夕刊

### さい銭一万円 お会式の総勘定

十二日池上お会式の総勘定一萬灯の数は二四一本（昨年は三〇一本）、人出は昨年より非常に多かつたが、本堂に上つたおさい銭は昨年と略同様の一萬円見当（清算は十四日午前までかかる、人出が多いと却ておさい銭が減る、人出と反比例、混雑のため完全におさい銭が上られないのだ）

警察事故は泥棒三十七件、すり三件、エロ行為三件、賭博六件、喧嘩三件その他で総計七十件、十三日朝になつてもまだ親許がわからない迷子が五名ある。

## 昭和七年（一九三二）十月十三日 東京朝日新聞朝刊

### 人出五十万 吉例お会式の賑ひ

池上本門寺が東京市の一名所となつて最初の吉例お会式は十二日早朝から相変らずの賑はひ、十三日午前一時には人出五十万といはれ打ち鳴らすうちわ太鼓はお山も動くばかり。遠く朝鮮、台湾、北海道からの奇特な信者などが見られた。万灯は約二百五十、今年は余り奇抜なものもなかつたがこれも例によつて品川付近から本門寺までの沿道は夜更けまで見物で埋まつた。警視庁の警戒に引つかかつた例のおさい銭どろは捕まつた者四十五名、迷子四十八名、負傷者二十二名その他はお山を汚したエロ犯や太鼓片手の賭博などであつた。

### 太鼓を持ったまま感電即死

十二日夜八時頃、団扇太鼓だけで景気よく本門寺お会式に出かけた世田谷区内のトビ職の一人途中目黒区清水町三九五先の畑道に差しかかると付近一帯が停電して真暗な中に、電柱と電柱の間の市電三千三百ボルトの電灯送電線が切れていて、頭上から長く垂れ下がっていた、それに引つかかっていたのが一団中の世田谷区下馬一の二四二太田友吉で太鼓を持ったまま友達の驚き騒ぐ間に無残にも感電即死してしまつた。目黒署は市電側の工事粗忽として嚴重警告を發するはず。

### 昭和七年（一九三二）十月十三日 読売新聞朝刊

#### 新東京の喜びにお会式大賑ひ 火の海、人の渦！

秋ばれに恵まれてきのふお会式は早朝から大変な人出―池上町も立派な東京市大森区、日蓮様も同じ市民だといふ喜びに本門寺はしまつて以来の雑踏、神奈川、千葉、埼玉などからもどんどん押しかけて境内だけでも数百の万灯に埋め尽され省線、池上電鉄、目蒲電車は一時間に三万の乗降客、十一時には約五十万の人が本門寺を囲んで渦巻き火の海人の海。

### 昭和七年（一九三二）十月十四日 読売新聞朝刊

妙法寺お会式 人出十万！

十三日、杉並区堀の内妙法寺お会式の人出は約十万に上り大変な賑ひであつた、中野署では妙法寺境内に、杉並署では妙法寺口に警戒本部を置き交通整理に當つたが、事故は迷子十八件負傷者の数五件であつた。

### 昭和七年（一九三二）十月十九日 読売新聞朝刊

#### 鬼子母神のお会式

雑司ヶ谷鬼子母神のお会式の人出は十八日午後十時半頃が最高潮に達し無慮十一万に上つた。この混雑中に同四十分から五分間ばかり付近一帯の電灯が停電したので一時は大騒ぎを演じた。

### 昭和八年（一九三三）十月十日 読売新聞夕刊

#### 「新選組」の腕試し 池上本門寺の警戒に特別警備隊乗出

池上本門寺のお会式は来る十二日に挙行されるが、省線大森駅から池上洗足池に至る沿道は例によつて数十万の人出予想されている、この人出整理、警戒のため警視庁では六個中隊（一個中隊百名）合計六百名の警官隊を沿道五ヶ所に配置することになつた。

雑踏の中心地とみられる本門寺境内付近には、山門下の池上第二小学校を大隊本部として二個中隊二百名がこれに直属することになつた、この二個中隊は新制度の特別警備隊が当たつて初の腕試しを

するわけである。

## 昭和八年（一九三三）十月十二日 東京朝日新聞夕刊

### 明日お会式

明十二日は恒例の池上本門寺のお会式、殺到する善男善女は約五十万と予想され、警視庁では例によつて大森、久松、両国三署から六百五十名の警官を選抜警戒せしめ、宮塚新特別警備隊長が大隊長として警戒の陣頭に立つ、威勢のいいまとひは今年も御法度で見られず、万灯も「一人で持ち歩き出来るもの」と限定されている、省電はじめ池上、目蒲、京浜各私鉄は終夜運転するがその他の交通機関は当日午後二時から禁止されるはずである。

## 昭和八年（一九三三）十月十三日 東京朝日新聞夕刊

### 雨のお会式

今晚のお会式をひかへて池上方面は雨の小降りになった朝八時頃から段々参詣者がふえ、午後二時過ぎまでに約四五万人、池上第一小学校に本部を置く警戒陣は宮脇隊長の率いる三個中隊に両国、象潟、久松三署からの応援六三〇人の警官を加へて物々しく、御法度のまとひを没収された兄い連の団体もあった。

## 昭和八年（一九三三）十月十三日 読売新聞夕刊

### 雨のお会式 警官七百名出動

けふ池上本門寺のお会式も朝からの雨に降り込められて参詣者の出足もぐつと鈍り、一年中の儲けをけふ一日で上げるつもり沿道の商人連中は空を見上げて雨をかこつ有様、零時半までの参詣者は例年の二分の一で約一万人ぐらい、それでも夜に入ればお山を囲んで万灯の火の海、人の海を吐き起すことだらう、と警戒員もいつている。

この日警視庁では警戒のため本部を石段下の小学校に置き、先ごろ編成された「新選組」宮嶋隊長以下三ヶ中隊二百十名の特別警備隊が出動してまづ初陣の小手調べ、叩けばカンと鳴りさうな元気である、このほか各署から警官隊詳細省略なほ万灯は例年祖師堂まで登れたが、一般参詣人の邪魔になるといふので今年からは石段下までしか行かない。

## 昭和八年（一九三三）十月十三日 東京朝日新聞朝刊

### 東京音頭で行進（昨夜のお会式）

昼間は雨に出足をそがれた十二日の池上本門寺の御会式は、夜にいつて雨が上つたので流石にお会式景気を取戻しトントンの団扇太鼓は本門寺へ！本門寺へ！

大森、蒲田、池上の三駅をつなぐ一带の空は物凄いばかりの夜景を展開、団扇太鼓の乱打にうっかり調子が出過ぎて「をどりをどるなら」の東京音頭行進に早変わり。

警視庁特別編成の新選組がはじめて出動したが、警官連も人波にもまれて提灯をうち振つて交通整理に大露、今夜零時まで約四十五万人の出入と注された。

### 昭和八年（一九三三）十月十三日 読売新聞朝刊

東京音頭も飛出す 人出四十四万、万灯百の淋しさ 大量の新選組に犯罪も減少

日蓮サマの御利益か、十二日の池上のお会式は午後になつて雨がどうやら上つたので夜に入るとともに人足がぐつと増して大森、蒲田から池上へは例年ながら灯の海、人の波と化し、打ちならすうちは太鼓でお山も揺がんばかりであつた、繰込んだ万灯約百個、十三日午前一時までの人出約四十四万人で昨年の万灯二百五十、人出五十万に比べてひどい減り方。

この日初出動の特別警備隊のいかめしい警戒が効いたか、つきものの犯罪も少なく賽銭ドロの十一件を筆頭に、不良五件、酔つばらひ三件、スリ二件、迷子二件等合計三十余件が本門寺下の本部に引つかつただけ、大体にいつもよりも淋しいお会式であつた、そのうちちよつと変つたところを拾ひあげるとざつと左の通り。

午後四時ごろ例の「死なう」団の一団十四名が本堂わきに黒衣白鉢巻姿で真日蓮主義のパンフレットを配布しようとしたが「死なう」の文字が当局の忌諱にふれて（判読不能）妻はる子は芝区西久保八幡町二五睦講の万灯の屋根が落ちて頭部に全治一週間の負傷▽午後九時ごろ石段の下に店を開いていた本所区向島一ノ九九海老澤清雄の屋台へ提灯が落ちてセルロイドのおもちや三百個がボツと燃えて一時は大騒ぎ▽お山の上ではお題目をうち忘れたか東京音頭を歌ふ幾組かが現れて「ヨイヨイ」と

一九三三年を色どつた。

児童虐待防止法の施行で名物の乞食の中から子供乞食が姿を消したので、大人だけで「歌はして下さいよう」とさかんであつた。

### 昭和九年（一九三四）十月十二日 東京朝日新聞夕刊

お会式に市電の臨時運転 争議のため二線だけ

十二日の池上本門寺のお会式を控へて、市電は毎年幹線を午後十二時の終電から一時間延長して翌午前一時迄運転する慣例であつたが今年は市電争議のため五反田―金杉橋、品川―浅草間のみを十二時迄、一時間延長する予定である。

### 昭和九年（一九三四）十月十二日 東京朝日新聞朝刊

団扇太鼓の音勇し 池上本門寺御会式実況 後九時関東名物の初中継

今夜は関東名物の池上本門寺御会式である。法灯連綿として六百五十年、寺門栄え開祖日蓮聖人を崇仰し一山に参詣する人々は昼夜をかけて実に百万に上るとのことである。華やかに飾つた名物の万灯、団扇太鼓に向ふ鉢巻勇みの姿で練り込む若人、さては老幼ただ見るから非常時に相応しい賑やかな景氣の良い状で、本堂には香煙立ちこめ、堂を埋める一山大衆や参籠の人々は祖訓をしのびて読経に余念

がない。

A Kでは本年初めてこの関東行事中、名物の王座である御会式状況を午後九時より山内各所にマイク  
ロフォンを移動し宗門伝統の輝きを、全国に中継放送することとなった。尚明朝は八時から矢張り同所  
より臨滅度時の鐘が中継放送される。

### 御会式の警戒

例年約五、六十万の善男善女が殺到する池上本門寺の御会式も今十二日に迫り、警視庁では本門寺付  
近の池上小学校に警戒本部を設け約一千名が警戒に当り水も漏らさぬ警戒陣を敷く事になった、お江戸  
の名残りのまとひは今年も絶対駄目、僅かに万灯高張は一人で自由に持ち歩き出来るものといふ嚴重な  
取締り振りである。

### 昭和九年（一九三四）十月十三日 東京朝日新聞夕刊

#### 天氣に恵まれた本門寺のお会式 現代意識も織交ぜ大氾濫

台風が本門寺を除けて十二日のお会式はまづお天氣？「ドンツクドンツク一貫三百どうでもいい」連  
中がドンと許り池上へ押しかける、本門寺前から坂にかけては正に南無妙法蓮華經の大氾濫だ、道はた  
の両側にはもう柿の店がぎつしりと並んで秋の深さを見せる、山の上には一番駆の池袋長栄講、京橋五  
日講等の大万灯がもう飾られて太鼓、団扇太鼓等々の一大合奏だ午後にかけて人足は刻々に増してい  
つに変わぬ日蓮様の偉大さだが、本堂裏のテントから響いて来るお説教の中に「：一九三五・六年の危機：」

が飛び出したり「暁れ皇空を妙法の力で」のスローガンがはられていたり：チョッピリ現代の呼吸が見られる。

### 昭和九年（一九三四）十月十三日 読売新聞夕刊

#### 賑ふお会式

例年雨に悩まされていた池上本門寺の御会式も、ことしは晴天に恵まれて十二日早朝から押しよせた人の波は正午すでに三方を突破した、警視庁では大森署の一個中隊を主に新選組ほか三個中隊七百余名の警官を動員して石段下の池上小学校を本部に沿道各所の警戒につとめているが参詣人は刻々増加して行き、夜に入つての超混雑を思はせている。

### 昭和九年（一九三四）十月十三日 東京朝日新聞朝刊

#### 法悦の響を伝える 臨滅度の鐘 前八時、池上本門寺本堂より

団扇太鼓と唱題に賑やかな一夜を明かした池上本門寺では本日午前八時より同宗門の重き行事である御会式法要の「臨滅度の鐘」の推鐘が同寺貫首大僧正酒井日愼師が一山大衆百余名を率いて盛大に厳修される、この鐘は開祖聖人が入滅さるる時、初めて打たれ哀愁を伝えられた由緒ある鐘で、法灯六百五十年宗門の隆盛と共に名宝として代々秘蔵継承されている。

AKでは前夜山内における賑やかな情景を放送して初めて関東一の名物を紹介したが、更に本日午前八時より本堂から御会式法要状況の中継放送して全国幾百万の信徒のため冥加の福音を伝えることとなつた、なほ当日の法要順序は次の如くである。}(以下省略)

### 雨の御会式人出百万人

吉例の雨は降つたが御会式の人出は十三日午前零時現在六十九万七千人、夜明けまでには百万の人出と見て警視庁では警戒に努めたが例によつて本門寺の混雑は流石に名物、警戒本部で検拳したお賽銭泥棒二十八人、団扇太鼓片手の賭博十五件、タカリ四件、スリ四件例年に比べては平静であつた。

## 昭和九年(一九三四)十月十三日 読売新聞朝刊

### 人出七十万 雨のお会式大景気

十二日池上本門寺の御会式は恒例の雨が一時シヨボつてお山も雨もグシヨグシヨだが、意気は相変わらず盛ん!「へん!張子の虎ぢやあるめえし雨が何でえ」「雨の中でぶつたたく江戸っ子の太鼓を聞いてくんねえ」といつた調子。

日暮れると共に団扇太鼓の音は愈々激烈、昼間の老人や女子供と入れ代つて雨具に身を固めた哥兄連や尻ばしよりの姐御たちがどんつくどんつく繰り返してそこへ万灯の山入りだ!

今晩零時までの参詣人はざつと七十万人、山内に並んだ万灯高張提灯が五一二個、去年の四十五万人にくらべて二十五万人の増加、大小幾つのお賽銭が褐色の小山を築いて、之を盗もうとしたバ

チアタリが二十八人も捕まった。

## 昭和九年（一九三四）十月十四日 読売新聞朝刊

### 妙法寺のお会式

池上本門寺のお会式に引つづいて杉並区堀の内妙法寺のお会式は十三日、秋日和の好天氣に恵まれて団扇太鼓の音も勇ましくお題目に、さては名物の万灯を担いでにぎやかに繰り込んだ人出は午後十時の頂点には二十万といわれ、一山大衆で境内は身動きも出来ぬ雑踏を見せた、このためバス堀の内妙法寺間は運転中止となり杉並署では署長以下総出動で警戒に當った、なほこの日の事故は迷子十八件、喧嘩一件、スリ一件あつた。

## 昭和十年（一九三五）十月十三日 東京朝日新聞夕刊

### けふはお会式 お題目沸騰 本門寺興奮狂騒曲

今夜はお会式だ——十二日早朝からドンツクドンツクと団扇太鼓の響きが街から街へ奔流する、聖地の池上を目指して「南無妙法蓮華經」のお題目の行列が雨上がりの泥道を蹴散らして続く、続く、本門寺はお昼前からもう数万の物凄い人出で「有難い」程、わめき合ひひしめき合っている、午後一時本門寺傍の池上小学校では警視庁の特別警備本部が一斉招集され岩城監察官指揮の警官隊八百名が外套を肩に

提灯を腰に珍武装物々しく新選組の六尺棒も交つて部署につく潮の如く高まる太鼓の響、お題目の歓呼、  
気の早い万灯が門前に勢揃ひして日の暮れるのを待っている、ドンツクドンツクドンツクツク耳を  
響する喊声の中に聖夜の狂騒に塗りつぶされて往つた。

## 昭和十年（一九三五）十月十三日 読売新聞夕刊

### お会式沸騰 天気と半どんの人足 沿道にドンツクパレード

ドンツクドンドン南無妙法蓮華経：けふは池上本門寺のお会式、気づかはれた夜来の雨もどうやら晴  
れて未明から押しかけた善男善女で市内は足の踏み場もない雑踏を呈し、池上電車や省線蒲田、大森の  
両駅は大変な景気、殊に土曜から日曜に重つて百万の人出を予想され沿道を埋め尽した露店の客を呼ぶ  
声を打ち消すやうに団扇太鼓の団体が次から次へと雪崩れこむ。

その中を若衆連の気の早い万灯が朝つばらから続々と練り込む、この調子で夕刻から夜半にかけて全  
市から集まる万灯、団扇太鼓の洪水は池上一帯に氾濫し山内のおこもり五千人が加はつてドンツクド  
ンツクお会式は最高潮に達するのだ。

この雑踏に備へて警視庁並びに地元の大森、荏原、蒲田、品川各署から七百数十名の警備隊が出勤し  
て警戒にあたつている、早くも午前中の迷ひ子二人賽銭泥棒三件で事故はこれから……。

## 昭和十年（一九三五）十月十三日 東京朝日新聞朝刊

### 万灯も新型

江戸の姿を残す風物詩、十二日池上本門寺のお会式―十三日午前一時現在で人浪五十三万といふ警戒本部の発表だ、池上駅から本門寺の間で雪崩を打つた人波で夜店のおでん屋、柿屋、団扇太鼓屋が十軒ばかり軒並に押しつぶされた、万灯は去年は百五十から出たが今年は百十位になった、蠟燭をともした万灯が少なく殆ど電化したのも御時勢だ、十三日午前一時現在の事故はかっぱらい三十三件、賽銭泥五件、スリ六件、迷ひ見二十件、泥酔者五件。

## 昭和十年（一九三五）十月十三日 読売新聞朝刊

### 三五年時代模様のお会式

団扇太鼓と大万灯とお題目が奏でる狂騒曲の渦から拾ひあげた三五年の「時代模様お会式の姿」

### ルック背中のハイキング男やスポーツ嬢、洋装ママ

山上下人の波に吞まれて池上本門寺の祖師堂さしてのぼる胸突き四町の石段が三時間もかからうといふ大雑踏の整理にはさすが訓練された新選組はじめ各署選り抜ききの交通巡查氏も悲鳴をあげる、なかに一際めだつて効果をあげているのが法衣を纏つた山内整理の坊さんである、本門寺の提灯を片手に棒杭のうへにスツクと立つて辻説法の日蓮のやうな形で群衆を睨め下して声高らかに「ナム・ミョウ・ホーレンゲキョオー」とやると押しあひへしあふ連中もピタリと止まる、お題目の効顯はあらたかである。

赤、青、黄、いろとりどりの鉢巻き襷で踊り狂つて景気よく練り込んでくる威勢のいいのがあとから白装束の男が直径三尺くらいの大団扇太鼓を鳴らしながら悠々と上つてくる、みると背中リユツクサツク、この男ハイキングの帰りらしい「リユツクサツクの中は食料品ですか」ときくと「滅相な！経文が納めてござるゾ」と大事そうに背中に手をやつた。

自慢の大万灯があとからあとから続いてくるなかにネオンサインのやうに明滅しながら揺れてくる大万灯これは蠟燭ならぬ豆電気が数十個とりつけてある斬新な万灯だが、これを鮮かに明滅させるために汗みづくで苦勞している男がいる、向ふ鉢巻で担いでいる男の傍らに丸くなつてくつついている男、その背中に大きな電池が背負はされていて、コードが万灯につづいていて、万灯の動く通り動きながら始終ボタンをおして電気を明滅させていかなければならないのだ。

本堂のかたはら大黒天の御堂のなかで数十人の男女が団扇太鼓をたたいている、その音頭をとるのが大太鼓、太い撥で皮も破れよと叩いているのが十八、九歳妙齡のお嬢さんだから見物人が大変だ、紅の袂を調べてドンツクドンツクたたいていたお嬢さん、姉さんらしいのと交替して汗を拭きながら「とてもいい運動になるわ」彼女の場合、お会式もまたスポーツであるらしい、水兵服の可愛い信者の手にした団扇太鼓に法華のマークのかはりにミツキ・マウスやベティ・ブーブがついていると思つたら。パパはマドロスパイプにステツキ、ママはハイヒールの洋装だつた。

この夜の人出、今暁一時現在で五十三万四千人、夜明けまでには百万人突破の予想、事故は窃盜十四件、賽銭泥棒三十三件、スリ六件、詐欺二件、迷子二十件。

昭和十年（一九三五）十一月十五日 東京朝日新聞朝刊

江戸っ子の柿 キザ柿で隠れもない 大衆向き枝付禅寺丸物語

風味といひ、形といひ、色沢といひ柿は日本が世界一である。それだけ種類も多い。中にも富有、次郎、御所などは最も優れたもので、従つて市場価値も高く、どちらかといへば、殊に東京では高級品になつている。

一般大衆の口にのぼるのは何といつても禅寺丸であらう。本門寺のお会式の土産に、太鼓と共にかつて帰る枝柿がこの禅寺丸である。〜（以下、柿の記事省略）

昭和十一年（一九三六）九月七日 読売新聞朝刊

お会式序奏 ドンツク統制へ三拍子あらため二拍子に 流行唄入りの賑やかさ

南無妙法蓮華経どんつくどん……東都名物池上本門寺のお会式が近づいて今年は何か時代的な新機軸を出さうと坊さん達が思案の挙句、佛の道も御時勢ぢやと商売気を出してビクターの市丸さん、小野巡君までまで狩り出してお祖師様も浮れ出しさうな「お会式音頭」踊り、さては「お会式行進曲」でドンツク調子へ拍車をかけることになつたが更に何事も統制ばやりの今日、一つこれまででんでん勝手だった団扇太鼓の叩き方も統制しようと、ドンツク統制を中心にお会式座談会を六日午後一時から本門寺の本堂に開いた。

酒井貫主以下の日蓮宗のお偉ら方が円頭を蒐めて智慧をしぼつたすえ、往來のドンツクは三拍子でテ

ンポがのろく時代にふさわしくないといふのでこれを一拍子あげて二拍子の急テンポに改めることにきめ、三時から踊の練習に移つて本堂に池上日曜学校の可愛い子供を集めて「こどものお会式、テレツクテン、万灯のお練りだ、お通りぢゃ…」と振付の加来琢磨氏が大汗ダク。

六時から「団扇太鼓の調子に惚れて、来いといふなら、コラシヨ…」と市丸さんのくだけたレコードに合はせて講中の人たちが坊さんと一緒に手ふり足どり面白く八時ごろまで新時代お会式の前奏曲を踊りぬいた。

## 昭和十一年（一九三六）十月十一日 東京朝日新聞朝刊

### 記念スタンプ 新文展とお会式に

記念スタンプ蒐集マニヤにとつて秋の催しはその食指を充すに足ると云ふものです、上野の秋を飾る文部省美術展覧会の記念スタンプが出来ました、美の神ヴィナスの像に府美術館を配したスマートなもの、来月二十三日まで会場内の下谷郵便局臨時出張所で押捺します、また万灯行進をつづける十二日の池上本門寺のお会式、この方は同日から十三日の朝まで徹宵で二種類の記念スタンプを本門寺奥院前で捺してくれます。

## 昭和十一年（一九三六）十月十一日 東京朝日新聞朝刊

### お会式迫る 万灯行進今年は新道

天気さへよければ七十万の人数を予想される十二日の池上本門寺の「お会式」に備へて警視庁では十日午前九時から大森、大崎、荏原、蒲田、東調布、四谷、京橋、亀戸の關係各署長を招集警戒方針について協議した。

当日は池上第二小学校に警戒本部を置き岡崎監察官の指揮下に前記八署の他に特別警備隊、各署交通係を動員合計七百五十名の警官を繰出して水も漏らさぬ警戒陣を布くことに決定した。

万灯の行進は例年の旧道を廃し、今年は大森から新道を通つて本門寺に向はせ出来るだけ雑踏を避けるとのことである。

## 昭和十一年（一九三六）十月十三日 読売新聞夕刊

### 統制と急テンポ けふからドンツク音頭 円タクで万灯百五十

「統制」と「急テンポ」の時代の二色をきつかりと塗りあげて、けふ（十二日）からお会式開幕である、降りみ降らずみ、いつもならば趣向自慢の万灯の濡れるのを気にするところだが、統制時代の気安さは、警視庁の旦那衆の御命令どほり「一人で持てる大きさ」の「風俗公安を害さない程度」の万灯を、それも途中のドンツク行列を遠慮して円タクで池上本門寺へ運びこんだ、その数は百五十あまり。

有名な神田八講の連中はお祖師様一代記を高さ一丈の三本の万灯に描いたが、これはトラツクで池上

へはこんだ、まるでお引越してみたいなお会式で：そこで香煙燻る本門寺さぞやドンツクのすさまじい反響であらう、とおもふと、いつもの三拍子の間の抜けたドンツクドンドンツクツク：が、急テンポの二拍子に統制されてドンドンツクツク：と時代のテンポを団扇太鼓にうち出している。

### 昭和十一年（一九三六）十月十三日 東京朝日新聞朝刊

#### お会式の大交響楽

池上本門寺のお会式―十二日の雨もよひにもめげず朝からドンツクドンドンと賑やかな人の流れ、夜に入ると例の大方灯がゆらりゆらりと新舗装道路を練り午後十一時迄の人数七十万、万灯は四十二、高張は十八、迷子は二十一人それに賽銭泥も二十五人捕る騒ぎ、なほこれに次いで雑踏を予想される杉並区妙法寺お会式は十三日に行はれる。

### 昭和十一年（一九三六）十月十三日 読売新聞朝刊

#### 雨に寂れたお会式 人出四十万

十二日夜のドンツクお会式は雨もよひの空がたうとう八時ごろから大降りになつたが、さすがに本門寺の人数は十三日午前一時まで三十九万四千人に達したが、統制にたたられたか高張、万灯の数は合計八十六で例年にくらべると淋しかつた、大森署の昼夜の事故録によると迷ひ子三十五人、賽銭泥

三十四件、スリ四件等であつた。

## 昭和十二年（一九三七）八月二十四日 東京朝日新聞朝刊

### おお力強いお会式の群衆よ！ 親日外交官モ氏・送別の辞

親日外交官として有名であると共に、隠れた日蓮宗の篤信家であるアルゼンチン公使アルベレス・モンテネグロ氏が来月十八日、賜暇帰国するに当り日蓮宗宗務院社会課主催でその送別祈祷会が二十三日午後五時半から池上本門寺でひらかれた。白の服に長身を包み、浅黒く日焼けしたモンテネグロ氏は数珠をつまぐりながら終始黙々として酒井日慎大僧正の下に祈祷をささげたが、終つた本門寺から記念の念珠を贈られニコヤカな微笑をたたへて自分が日蓮宗を信するに至つた因縁を述べた。

「私は非常に勝気な強情な男ですがその私が一九三一年十月十二日の日は自分でもどうしてよいか判らぬ程自分を失つていました。それは故国の父リヤスの死亡通知をこの日受け、それを自分と共に日本に來た母アンヘラにどうして知らせようかと思ひ悩んでいたからです。その時図らずも当本門寺の山内を逍遙し、あの力強いお会式に集る群衆の姿を見たのでした。以來及ばず乍ら日蓮上人の研究をし、日蓮宗の中に日本人の精神の強さに触れたのです」

父の死と共に日蓮宗を知つた同氏は以來七年間、日蓮宗の社会事業のため毎年多大の寄付をすると共に種々の後援を続けていたもの、次いで酒井大僧正以下の僧侶たちと共に精進料理で送別の宴を張つたが、盃を傾けると共に同氏はいよいよ日本に対する親愛の情を示し故国に帰つたら是非、日本の日蓮上人について国中を講演行脚をして回るつもりだと語つた。

昭和十二年（一九三七）十月十三日 東京朝日新聞夕刊

非常時お会式 正午既に八万

十二日は恒例池上本門寺の御会式、早朝から勇ましい太鼓の音が響き渡り、続々と押し寄せる参詣者の群は正午既に八万人を数へた。

警視庁の警戒陣は午前中大森署から警官百名が出動、午後から夜にかけて山下監察官以下各署から動員された六百五十名の警官が配置されたが、事変の関係もあり参詣者は例年の七十万内外を突破するだらうと見て事故防止に万全を期している。

昭和十二年（一九三七）十月十三日 読売新聞夕刊

軍国調のお会式 けいふの賑はひ

帝都秋の年中行事―池上本門寺のお会式は十二日朝から開幕、山門には皇軍の武運長久、皇国の国威発揚祈願の幟旗二本が雨催ひの空の下に白く鮮やか、早朝から応召兵の家族らしい老婆が、子供を負つたお内儀さんが、新妻らしい女たちが、夫の、息子の武運を祈つてお題目を唱へながら非常時調のドンツク、ドンツクの太鼓の音に吸ひこまれるやう本堂につめかける。

―正午までに約十万人道端にぎつしりと並んだ店には柿の色も美しく戦火の北支の秋を偲ばせどもこれも事変調であるこの日大森署を中枢として田園調布ほか五署の応援巡査、警視庁新選組が出動して警戒陣を布くなかにドンツク、ドンツク、暴支膺懲ドンツク、非常時克服ドンツク、武運長久ドンツクが

急階調に高つて行く。

## 昭和十二年（一九三七）十月十三日 読売新聞朝刊

### 非常時お会式

きのふ池上本門寺のお会式は雨の中を例によつてドンツクドンツクの人波、万灯、高張提灯も皇軍万歳・暴支膺懲・等と大書した非常時色。

例の団扇太鼓は軍歌早替り、夕方から雨も晴れ人の波は愈々勢ひを増し今暁一時までざつと四十万。

## 昭和十三年（一九三八）十月九日 東京朝日新聞夕刊

### 本門寺自肅お会式

来る十二日、池上本門寺のお会式は事変下皇軍の武運長久を祈願する参詣者で例年に増す混雑が予想され、警視庁では各警察署を通じて講社その他の参拝団体に自肅自戒を要望、原田監察官を大隊長に六ヶ中隊五百名の警戒陣をしく。

万灯、高張等も一人で持てる程度の小さいものに限定、泥酔客の参詣を禁止。  
なお附近一帯の商店は商店法第四條により当夜は終夜営業を許さる。

## 昭和十三年（一九三八）十月十二日 読売新聞朝刊

### けふお会式 事変下二度目

けふ十二日は秋の年中行事——本門寺のお会式である。事変下はやくも二度目のお会式を迎へた本門寺は昨年にもました自粛ぶりであり十二日には「武運長久国禱会」十三日には今事変戦没将士の「英霊追悼会」を厳粛に行ふが、はやくも今暁から折からの雨の中を善男善女は三々五々本門寺に押しかけている

今年には高張提灯や万灯は一人で担げる程度のもので、仮装は一切御法度だが肉親を戦線に送っている家族連やゆかりの団体、各町会等の武運長久祈願のため人出はかへって例年より多からうと予想されているが、十二日の天気予報は「曇時々雨温度下る」とあるのは参詣者に気の毒だ。

## 昭和十三年（一九三八）十月十三日 東京朝日新聞夕刊

### 厳かに国禱会 事変下お会式

事変下に第二回目の御会式を迎へた池上本門寺では十二日「皇威顕揚国運隆昌」と書き抜いた正門の大雪洞も事変色を出して酒井大僧正以下百五十名の衆僧は午前十時から正午まで、また午後二時から四時までと二回に亘つて厳粛な武運長久の国禱会を執行した。

夫や兄弟の武運を祈る家族達は早朝から相続き団扇太鼓も時局下の響きを伝えていた。

なお十三日は午後二時から戦没将兵大追悼法要が行はれるが、参詣者十五万余の殺到を予想した池上電車、東横電鉄、東横バス等々では終夜運転並に増車する。

## 昭和十三年（一九三八）十月十三日 東京朝日新聞朝刊

### 非常時調お会式

事変下に第二回を迎へた池上本門寺の御会式―十二日は朝來の雨にたたられ、門内は泥濘の海と化したが相も変らぬドンツク行進は武運長久を祈る非常時調を高くひびかせ夜も傘の波はひきも切らず、しかし流石時局下だけに万灯も遠慮の向き多く、午後十二時までの人出約十七万、これは例年の三分の一といふ寂しさだつた。

## 昭和十三年（一九三八）十月十三日 読売新聞朝刊

### 戦闘帽も交る 自肅お会式の人波

秋雨しとしとふる中に事変下ふたたび迎へた池上本門寺のお会式、十二日夜は当局の予想を裏切つて例年にない寂しさを見せ、ドンツク太鼓の音も雨に冴えぬながら銃後自肅の氣構へをうつしてかへつて堅実な音律となつて流れる。

高張の数もわづか五つ六つ、代つて皇軍武運長久の幟を担ぐもの、白の行衣に戦闘帽を被るもの、微笑ましい事変色が散見される。

混雑を予想して繰出した警備員も手持無沙汰の体だ、この夜十時までの人出は朝から数へて十六万五千人でいつもの半分といふのに女性が目立つて多いのも分野にあるわが子、わが兄、わが父、わが夫の武運を祈る可憐な姿の現れか。

## 昭和十四年（一九三九）十月五日 東京朝日新聞夕刊

今年も自肅お会式 小さな万灯、団扇太鼓は宜しい

仲秋十月の行事：来る十二日の池上本門寺の御会式に一般参詣人の支障なきやうにと警視庁警備係では先頃から本門寺を中心に大森蒲田、東調布の関係署と協議中であつたが、昨年三十万人の出入にも拘らず参詣人の自肅張りも目覚しく無事故に近い好成绩を収めたので本年もこれと同様の成績を予想し、三署の警官四百名だけで警戒、特別警備隊の出勤は見合せて市民の自肅を要望している。

従つて纏は依然厳禁のままであるが、御会式の景物も一人で持ち運び出来る程度なら差支なく、団扇太鼓も先頃厳令された高音取締規制の除外例によつて当日は信者講中の人によつてドンドコドンドコ打ち鳴らす事は宜しいと、四日、各署長宛に自肅御会式に寛大な取締方を通達した。

## 昭和十四年（一九三九）十月十一日 東京朝日新聞夕刊

御会式に終夜運転

来る十二日の御会式当夜省電並に池上電車では例年通り終夜運転を行ふ、省線は上野桜木町間、中野両国間、山手循環線、池上線は五反田蒲田間全線で尚目蒲線目黒田園調布間、大井大岡山間は夫々翌午前一二時迄繰下げ運転を行ふ。

## 昭和十四年（一九三九）十月十一日 読売新聞第二夕刊

### 本門寺お会式省電終夜運転 賃金もラウンド制で

来る十二日の池上本門寺のお会式に、東鉄では混雑緩和のため十二日夜から十三日朝にかけて山手線、桜木町、赤羽間、両国、中野間に電車を増発して終夜運転を行ひさらに山手線各駅、吉祥寺、赤羽、桜木町、亀戸の各駅から蒲田、大森に至る区間の臨時往復切符を発売端数を切り捨てて五銭十銭単位のラウンドナンバー制を実施する。

また目蒲池上線は終夜運転、目蒲線目黒田園調布間、大井大岡山間はそれぞれ翌午前二時まで繰下げ運転を行ふ。

## 昭和十四年（一九三九）十月十三日 東京朝日新聞夕刊

### けふお会式御速夜

事変下の秋を飾る池上本門寺のお会式御速夜の十二日は生憎朝来の冷雨だったが皇軍将兵の武運長久祈願をかねて例年に劣らぬ賑はひ。警視庁でも前年通りまとひは厳禁万灯も一人持ち程度に制限したため往年の様な度外れな騒ぎはなく、午後二時までに自粛の参詣者三万を数へた。

なお参詣者のため山手全線、中央線両國中野間、京浜線上野桜木町間は終夜運転、目蒲線目黒池上間は午前二時まで運転される。

昭和十四年（一九三九）十月十三日 読売新聞第二夕刊

団扇太鼓も自肅 秋雨をかこち顔の露店商人 けふ、本門寺のお会式

自肅の秋のお会式―池上本門寺のお会式御逮夜の十二日は夜来の秋雨にもめげず早朝から信者の参詣引きも切らず午後二時までに約二万八千の出人、だが雨と自肅にたたられて昨年の三分の一といふさびしさだ、大多数は真面目な団体信者と年寄り連の参詣者で万灯や幟をかついだ威勢のいいのは全然姿をみせない、参道の露天商は雨で売り上げは例年よりぐんと落ちる様子で雨をかこち顔だ。

夕刻から夜にかけてとと繰り出す参詣者は二十万を超すものと見られるので警視庁では沿道一帯に警官四百名を動員、雑踏整理や中毒防止のため衛生警視隊が出動するほか防疫課、衛生検査所等からも係官二十名が出張、所轄署と協力して沿道の飲食店、料理店等に器物、飲食物の指導取締を行つた。

昭和十四年（一九三九）十月十三日 東京朝日新聞朝刊

雨のお会式

お会式の十二日は今年も雨、それも朝の中は風さへ加つて暴風雨の警報迄飛んだが熱心な信徒達は老若男女、降りしきる雨を冒して池上の本門寺へ参詣に出掛け沿線各駅は相変らずの人の波、同日夜半迄に十三万二千の参詣者があつた。

## 昭和十五年（一九四〇）十月十一日 朝日新聞朝刊

### 自肅お会式 電車、平常通りの運転

仲秋十月の行事、十二日池上本門寺の御会式に際し警視庁では時局柄本年は特に万灯、飾り提灯等の自肅を要望すると共に、これらの取締については昨年同様の方針で臨む事になり関係各署へ通牒した。

従つて纏は依然厳禁、お会式につきものの万灯は一人で持ち運び出来る程度の小さいものに限るが団扇太鼓は特に高音取締規制も大目に見るわけである。講中信者の行列も一昨年は約三十万人、昨年は十五万人と減少したが、その自戒振りは事変以来目覚ましく昨年は無事故に近い好成績だつたし例年豪華な大万灯や高張り提灯、派手な花飾りの注文の殺到した市内の某提灯問屋、造花問屋を覗いてみても十日までにこれらの注文は一件もないといふ有様で節約と自肅の波はドンツクドンツクの世界にも押し寄せ粗末な信者手製の万灯や飾り提灯の他はお会式の景物詩も姿を消して、お会式の自肅振りも一段と色濃くなると当局では予想している。

このため警視庁では特別警備隊等の出勤も見合せ、本門寺附近の一般交通遮断、自動車乗入禁止区域、バス折返し地点を昨年同様に実施する他は参詣人の自肅に信頼、大森、蒲田、東調布三署の警官四百名で警戒に当る。尚日蒲電車も当日は平常通りで終夜運転を行はぬことになつた。

## 昭和十五年（一九四〇）十月十二日 読売新聞夕刊

### お会式の終電車時刻

十二日夜からの池上本門寺お会式は本年はとくに自粛して省電、市電、私鉄もともに終夜運転、延長運転は行わない。}(時刻表省略)

## 昭和十五年(一九四〇)十月十三日 読売新聞夕刊

お会式へ早くも五万

雨がつきものの池上本門寺のお会式にめづらしく晴れて十一日から三日間今年はとくに時局柄とて電車の終夜運転中止、お万灯も廃止、ものものしい警視庁新選組の六尺棒もなく自粛自粛だ。

それでも日和に恵まれて午後一時ごろには、はやくも参詣者五万人をかぞへ。

## 昭和十五年(一九四〇)十月十三日 朝日新聞朝刊

静かなる雑踏 お会式に四十万人

秋の恒例池上本門寺のお会式十二日は五年ぶりの好天気にも恵まれ、然も次の日は日曜といふのでどつと押出た人の波、警視庁では前年通り万灯は一人持ち程度と制限したものの数へる程も見当らず。

華やかな纏に代つて「祈武運長久」の旗が林立し交通整理の赤提灯が揺れる毎に人波は漠然と流れて行く。午後十二時までにこの参詣者は四十万を超えたが関係各線の終夜運転が無い為か一般に急ぎ足、団扇太鼓の音までせわしさうだ。尚警察の御厄介になつたもの迷子二十六件、すり六件、検挙者十六名。

昭和十五年（一九四〇）十月十三日 読売新聞朝刊

深夜組お籠り お会式へ四十万

雨のない自肅お会式、仲秋十月の名物行事池上本門寺のお会式は珍しく雨も降らず十二日から十三日の未明にかけて自肅一色の大賑ひを呈した。

一人持ち万灯以外はご法度とあつて昔の派手さはみられないがドンツクドンツクの団扇太鼓が僅に騒しいお会式風景を描き出し十二日早朝から詰めかけた信者でこつた返したが、同夜十一時までに送り迎へた善男善女の数は四十万。

電車の終夜運転廃止に深夜組は参籠者とともに山で暁を迎へるつもりか、自肅の裡にも人の出足はますます増えるばかり。

昭和十六年（一九四一）十月十三日 朝日新聞朝刊

御会式の人出半減

十二日池上本門寺の御会式は例年のお祭り騒ぎもなく、午後十時までの人出は二十二万二千名で昨年の半分、大森、蒲田、東調布の各署から警戒員が動員されたが、迷子三十八名、窃盗十件、スリ六件であつた。

**昭和十六年（一九四一）十月十三日 読売新聞朝刊**

**お会式時局調 参詣者も減る**

臨戦の秋にむかへた十二日の池上本門寺のお会式は信者の参詣者が早朝から引きもきらず相変らずの賑ひだったが、さすがに深まる自粛調にかつての騒ぎもみられず凡々裡に暮れ、午後八時までの人出も二十二万二千人（警視庁調べ）で昨年に比べるとぐつと減った。

**昭和十七年（一九四二）十月十三日 朝日新聞夕刊**

**戦時色のお会式**

戦徒の秋を彩る恒例の東京名物池上本門寺のお会式は十二日早朝から始まった戦勝祈願と出征将兵の武運長久を祈念する善男善女の群は早朝から境内を埋め正午現在で二万六千名を数へた。夜までには例年の如く相当数の人出が予想され、準備管制下ではあるが境内では特に万灯と高張提灯もゆるされ、自粛のうちにも戦時色豊に夜とともに賑はひをまして行つた。

**昭和十八年（一九四三）十月十二日 朝日新聞夕刊**

**決戦下お会式へ注意**

今夜は池上本門寺の御会式―警視庁では空襲必死の情勢下のこととて万灯など一切許さず、準備管制

を強化するが、都民は静粛簡素を旨として酒気を帯びてお詣りすることがないやう、如何なる事態にも即応出来るやう心構へを要望している。

## 昭和十八年（一九四三）十月十二日 読売新聞夕刊

### 米英ドン突くお会式

決戦の秋にひらく恒例のお会式、池上本門寺のお会式は十二日、都内はじめ近県の講中信者二十万をあつめ朝十時から十一時まで大國禱会、午後二時からは法要に入り米英撃滅の意気も高らかにドンツクの賑ひをみせた。

叩く団扇大鼓は例年のとほりであるが、境内に掲げる万灯や高張提灯は「敵米英撃滅」の文字がひときは目立つ、戦時下とあつて●●その他の連中は禁止されているが境内だけは夜十二時までは特に許されあくまで敵撃滅の戦意昂揚に終始する。

昭和十九年はさすがに記事は無く、翌二十年四月十五日の空襲により池上本門寺は伽藍の大部分を焼失、同年の記事も無い。

御会式文化資料叢書 4

昭和新聞記事集成

2020年6月1日発行 2024年4月6日電子書籍版発行

御会式文化研究会 編

お会式ねっと 発行

<https://oeshiki.jp>